

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校ESPエンタテインメント東京
設置者名	学校法人イーエスピー学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
音楽専門課程	音楽アーティスト科	夜・通信	2,084 時間	160 時間	
	芸能タレント科	夜・通信	1,712 時間	160 時間	
	音楽芸能スタッフ科	夜・通信	1,376 時間	160 時間	
	楽器技術科2年制	夜・通信	557 時間	160 時間	
	楽器技術科3年制	夜・通信	4,538 時間	240 時間	
	エンタテインメントビジネス研究科	夜・通信	1,266 時間	80 時間	
	楽器技術研究科	夜・通信	1,684 時間	80 時間	
※各科の中に存在するコースのうち、「実務経験のある教員等による授業科目の授業時間数」が最小のコースの時間を、代表として上記に記載致しました。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.esp.ac.jp/tokyo/introduction/info/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校ESPエンタテインメント東京
設置者名	学校法人イーエスピー学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.esp.ac.jp/tokyo/introduction/info/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	楽器業界事業会社 取締役	2020.4.1～ 2023.3.31	長年の楽器業界経験に基づくアドバイス
非常勤	前 P T A副会長、女性 会会長	2020.4.1～ 2023.3.31	保護者、女性目線での学校運営に関するアドバイス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校ESPエンタテインメント東京
設置者名	学校法人イーエスピー学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの作成については、前年度シラバスを基に、教育課程編成委員会による外部の意見を取り入れながら教務課と教員が学内教務会議を開催し、次年度の編成方針、科目の新設・改廃を決定します。 ・シラバス編成方針を教務課と科目担当教員が確認した上で、科目担当教員がシラバス案を作成、教務会議にて教務課が内容を確認したのちに評議員会、理事会で承認し、教育課程編成委員会へ報告します。 ・シラバスは本校ホームページに公表するとともに、年度始のオリエンテーションにおいて学生に周知し、教務課から授業概要、到達目標、成績評価の方法等の説明を行います。さらに授業冒頭において科目担当教員から履修メッセージを含め授業概要の詳細な説明を実施しています。 	
授業計画書の公表方法	https://www.esp.ac.jp/tokyo/introduction/info/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

●成績評価、修得認定について

・成績評価を適切に実施するにあたり、「イーエスピー学園成績評価に関する内規」によって以下のように規定しています。

評価	合格				不合格		
	S(秀)	A(優)	B(良)	C(可)	D(不可)	E(履修放棄)	F(試験不合格)
評点	90点以上	80点以上	70点以上	60点以上	60点未満	-	-

年度内の前後期に行われる2回の試験評価（筆記、実技）、及び平常点（授業内で行われた小試験、レポート提出、出席率等）から総合的に成績評価を行い、合計点を評価とし、修得認定とします（S，A，B，C）。

不合格判定（D，E，F）の履修科目は原則再試験、または補習授業の受講、及び補講期間内に本校が定める内容の補講レポートを提出することで再度成績評価を行い、合計点を評価とし、修得認定とします。

・全ての履修科目において、出席率が3分の2以上であることが成績評価の要件となります。3分の2未満であった場合には、履修放棄となります。ただし、出席率に応じたレポートの提出、及び補習授業を受講することによって成績評価の要件を充足するものとします。

●進級判定について

・成績評価が、履修科目全てにおいて合格判定（S，A，B，C）であることが進級判定の要件となります。

・上記に定めのない事項については、授業担当講師と教務課が協議の上、適正に評価を行います。また最終的な進級判定は教務会の議を経て学科責任者がこれを行います。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本校では成績管理を厳格適正に実施するために成績評価の方法を定め、学生個人の GPA (Grade Point Average) を算出し、客観的な指標として活用しています。また、学科ごとの GPA に基づく成績の分布状況を年度末に作成し、教職員が把握することで学生に対する学習指導に活用しています。

成績評価と GPA の対象は下記表の通りとなります。

評価	合格				不合格	
	S(秀)	A(優)	B(良)	C(可)	D(不可)	E(履修放棄)
GP	4	3	2	1	0	0

学習の習熟度合を測定する指標としての GPA を算出する際の計算式は、以下のとおりです。

$$(4 \times S \text{ の習得単位数}) + (3 \times A \text{ の習得単位数}) + (2 \times B \text{ の習得単位数}) + (1 \times C \text{ の習得単位数})$$

履修科目全ての単位数合計

学則に定める「授業時数の単位数への換算」により、年間の習得単位数は講義科目…15 単位時間=1 単位、実習科目…30 単位時間=1 単位として計算しています。上記計算式により算出したものを個人 GPA とし、当該学科・学年の個人 GPA を昇順に並べて順位付けを行い、学年内の順位を算出します。その順位により、下位 4 分の 1 を算出しています。そのため、学科、学年ごとに、下位 4 分の 1 の GPA ポイントは異なります。この算出方法は計算式と共に広く公表しております。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://www.esp.ac.jp/tokyo/introduction/info/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校の卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)は称号授与の可否判断の基準となる成績、出席率等の「卒業判定の要件」と、受講するカリキュラムを通して修得を期待する能力、育成人材像に基づき策定しています。

【卒業判定の要件】

・年度内の前後期に行われる2回の試験評価、及び平常点から総合的に算出される成績評価が、履修科目全てにおいて合格判定(S, A, B, C)であることが卒業判定の要件となります。不合格判定(D, E, F)の履修科目は原則再試験、または補習授業の受講、及び補講期間内に本校が定める内容の補講レポートを提出することで合格判定とすることができます。尚、進級判定の要件も同様としています。

・全ての履修科目において、出席率が3分の2以上であることが成績評価の要件となりますので、3分の2未満であった場合には、履修放棄となります。ただし、出席率に応じたレポートの提出、及び補習授業を受講することによって成績評価の要件を充足するものとします。尚、進級判定の要件も同様としています。

また、当学園の【教育の理念】、【育成人材像】に定められている要素を持ち合わせている必要があります。

・当学園の教育の理念を体現した、エンタテインメントに関する高度かつ最新の知識や技術を修得し、感動を創造できる人材であること。

- ・上記の感動を創造できる人材として以下の要素を全て持つ人物であること。
1. 好奇心を持ち続け、常に課題(テーマ)を見つけ、解決することができる人材
 2. 初心を忘れず、常に目標(夢)を持ち、達成し続ける人材。
 3. コミュニケーションをとり、仲間と仕事をやり遂げることができる人材。

以上を兼ね備え、履修科目全ての成績評価が合格判定である学生に称号を授与します。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.esp.ac.jp/tokyo/introduction/info/>

様式第 2 号の 4-② 【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第 2 号の 4-①を用いること。

学校名	専門学校 ESP エンタテインメント東京
設置者名	学校法人イーエスピー学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.esp.ac.jp/tokyo/introduction/info/
収支計算書又は損益計算書	https://www.esp.ac.jp/tokyo/introduction/info/
財産目録	https://www.esp.ac.jp/tokyo/introduction/info/
事業報告書	https://www.esp.ac.jp/tokyo/introduction/info/
監事による監査報告（書）	https://www.esp.ac.jp/tokyo/introduction/info/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		音楽専門課程	音楽アーティスト科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,712 単位時間/単位	530 単位時間/単位	88 単位時間/単位	1,466 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2,084 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
750 人		478 人	77 人	20 人	113 人	133 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校ホームページにて公表されているシラバス、及び様式第 2 号の 3 【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 1. を参照。 URL : https://www.esp.ac.jp/tokyo/introduction/info/
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第 2 号の 3 【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 2. 及び 3. を参照。
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第 2 号の 3 【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 4. を参照。
学修支援等
（概要） 通常の授業期間とは別に、フォローアップ期間及び追再試期間が予め設定されており、計画的な学修支援を行う体制を整えている。授業終了後の放課後の時間帯には、教室を開放してスタジオとして練習可能な環境を用意している。 また、最低年間 2 回の個人面談実施、必要に応じ適宜面談を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
219人 (100%)	4人 (1.8%)	31人 (14.1%)	184人 (84%)
<p>（主な就職、業界等） プロのアーティストとして活動するために、音楽芸能プロダクションやレコードメーカーとの所属契約を目標としている。 就職実績としては、楽器店、リハーサルスタジオ等音楽業界、他の一般業界。</p>			
<p>（就職指導内容） 合同企業説明会、個別の企業説明会、就職活動セミナーを定期的に行う。C S S（キャリアサポートセクション）を設置し、履歴書添削、面接指導、自己分析指導等を常時行っている。</p>			
<p>（主な学修成果（資格・検定等）） エンタテインメント業界でミュージシャン、歌手などのプロフェッショナルとして活動するために必要な技術・知識の習得。 Word 文書処理技能認定試験、Excel 表計算処理技能検定等の受講が可能。</p>			
<p>（備考）（任意記載事項） 学科の特色としてプロのアーティスト活動を目指す学生が多く、積極的に就職活動を行う学生は少ない。フリーランスのミュージシャンや音楽講師になる者が多く、そのままアルバイトなど一時的仕事を続ける者が多い。その中でも就職を希望してC S Sを訪れる学生に対して就職指導をしている</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
599人	116人	19.3%
<p>（中途退学の主な理由） 進路変更、経済事情、学業不振（長欠者）。</p>		
<p>（中退防止・中退者支援のための取組） 年に数回個別面談。保護者への近況報告。学費、奨学金相談など。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		音楽専門課程	芸能タレント科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,712 単位時間/単位	658 単位時間/単位	88 単位時間/単位	966 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			1,712 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		22人	2人	2人	15人	17人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校ホームページにて公表されているシラバス、及び様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照。 URL : https://www.esp.ac.jp/tokyo/introduction/info/
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の2. 及び3. を参照。
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照。
学修支援等
（概要） 通常の授業期間とは別に、フォローアップ期間及び追再試期間が予め設定されており、計画的な学修支援を行う体制を整えている。 授業終了後の放課後の時間帯には、教室を開放してレッススタジオとして練習可能な環境を用意している。 また、最低年間2回の個人面談実施、必要に応じ適宜面談を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 設置初年度の為、就職情報はない。 しかし、傾向として音楽アーティスト科と同様、モデルや俳優、声優などを目指す学科であるため、就職活動を行う学生は少ないと予想される。			
（就職指導内容） 合同企業説明会、個別の企業説明会、就職活動セミナーを定期的で開催。CSS（キャリアサポートセクション）を設置し、履歴書添削、面接指導、自己分析指導等を常時行っている。			

<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>エンタテインメント業界で歌手、ダンサー、俳優、モデル、声優として活動するために必要な技術・知識の習得。</p> <p>Word 文書処理技能認定試験、Excel 表計算処理技能検定等の受講が可能。</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p> <p>学科の特色としてプロダクション等への所属を目指す学生が多く在籍しており、就職を希望する学生は少ないと思われる。その中でも就職を希望してCSSを訪れる学生に対して就職指導をしていく予定である。</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22人	0人	0%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>今年度が設置年度であり、現時点での退学者はいない。</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>年に数回個別面談。保護者への近況報告。学費、奨学金相談など。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		音楽専門課程	音楽芸能スタッフ科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,712 単位時間/単位	960 単位時間/単位	64 単位時間/単位	688 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			1,712 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
460人		447人	51人	28人	41人	69人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校ホームページにて公表されているシラバス、及び様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照。 URL : https://www.esp.ac.jp/tokyo/introduction/info/
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の2. 及び3. を参照。
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照。
学修支援等
（概要） 通常の授業期間とは別に、フォローアップ期間及び追再試期間が予め設定されており、計画的な学修支援を行う体制を整えている。 早期入社等についてもレポート提出によって出席と同様の扱いとするなど、対応をしている。 また、最低年間2回の個人面談実施、必要に応じ適宜面談を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
174人 (100%)	0人 (0%)	103人 (59.1%)	71人 (40.8%)
（主な就職、業界等） 就職実績としては、主に音楽、音響、芸能、照明、イベント業界、他の一般業界。 有名なプロダクションを始め、エンタテインメント業界における有名企業への就職実績あり。			
（就職指導内容） 合同企業説明会、個別の企業説明会、就職活動セミナーを定期的に行う。CSS（キャリアサポートセクション）を設置し、履歴書添削、面接指導、自己分析指導等を常時行			

っている。
(主な学修成果 (資格・検定等)) エンタテインメント業界でスタッフ、音響、照明、楽器、イベント制作等の分野においてプロフェッショナルとして活動するために必要な技術・知識の習得。 Pro Tools 技術認定試験、秘書検定、ビジネス実務マナー検定、映像音響処理技術者資格認定試験、ビジネス著作権検定、舞台・テレビジョン、色彩検定等の受講が可能。
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
458 人	85 人	18.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更、経済事情、学業不振 (長欠者)。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 年に数回個別面談。保護者への近況報告。学費、奨学金相談など。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		音楽専門課程	楽器技術科2年制	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,712 単位時間/単位	536 単位時間/単位	72 単位時間/単位	1,104 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			1,712 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240人		184人	13人	8人	33人	41人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校ホームページにて公表されているシラバス、及び様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照。 URL : https://www.esp.ac.jp/tokyo/introduction/info/
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の2.及び3.を参照。
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照。
学修支援等
（概要） 通常の授業期間とは別に、フォローアップ期間及び追再試期間が予め設定されており、計画的な学修支援を行う体制を整えている。 早期入社等についてもレポート提出によって出席と同様の扱いとするなど、対応をしている。 また、最低年間2回の個人面談実施、必要に応じ適宜面談を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
64人 (100%)	3人 (4.6%)	41人 (64%)	20人 (31.2%)
（主な就職、業界等） 主に楽器製造、楽器販売、中古楽器取扱、楽器修理取扱業等に就職している。			
（就職指導内容） 合同企業説明会、個別の企業説明会、就職活動セミナーを定期的に行う。CSS（キャリアサポートセクション）を設置し、履歴書添削、面接指導、自己分析指導等を常時行っている。			

(主な学修成果 (資格・検定等)) 楽器製作、楽器修理、ピアノ調律、楽器演奏等に関する技術・知識の習得。 ピアノ調律技能士検定
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
157 人	9 人	5.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更、経済事情		
(中退防止・中退者支援のための取組) 年に数回個別面談。保護者への近況報告。学費、奨学金相談など。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		音楽専門課程	楽器技術科3年制	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,712 単位時間/単位	1,969 単位時間/単位	100 単位時間/単位	5,724 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			7,793 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
200人		106人	30人	6人	6人	12人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校ホームページにて公表されているシラバス、及び様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照。 URL : https://www.esp.ac.jp/tokyo/introduction/info/
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の2. 及び3. を参照。
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照。
学修支援等
（概要） 通常の授業期間とは別に、フォローアップ期間及び追再試期間が予め設定されており、計画的な学修支援を行う体制を整えている。 早期入社等についてもレポート提出によって出席と同様の扱いとするなど、対応をしている。 本学科については、作業の進行が速い学生については、何本でもギター製作が可能となっており、一部特殊な材、パーツを除いた製作に必要な材は無償で支給される。 また、最低年間2回の個人面談実施、必要に応じ適宜面談を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
33人 (100%)	2人 (6%)	23人 (69.6%)	8人 (24.2%)
(主な就職、業界等) 主に楽器製造、楽器販売、楽器修理等、楽器業界。他の一般業界。			

<p>(就職指導内容)</p> <p>合同企業説明会、個別の企業説明会、就職活動セミナーを定期的開催。CSS（キャリアサポートセクション）を設置し、履歴書添削、面接指導、自己分析指導等を常時行っている。</p>
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>楽器製作、楽器修理、アンプ・エフェクター等周辺機器製作、楽器演奏技術、3D CAD、illustrator等の技術・知識の習得。</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
116人	13人	11.2%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>進路変更、経済事情、学業不振（長欠者）。</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>年に数回個別面談。保護者への近況報告。学費、奨学金相談など。</p>		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	音楽専門課程	エンタテインメント ビジネス研究科科					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	856 単位時間/単位	324 単位時間/単位	32 単位時間/単位	910 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			1,266 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20人	0人	0人	1人	0人	1人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校ホームページにて公表されているシラバス、及び様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照。 URL : https://www.esp.ac.jp/tokyo/introduction/info/
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の2.及び3.を参照。 但し、2.における「●進級判定」に関する事項は1年制の学科のため、考慮しないものとする。
修了の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照。 但し、卒業を修了と読み替えるものとする。
学修支援等
（概要） 通常の授業期間とは別に、フォローアップ期間及び追再試期間が予め設定されており、計画的な学修支援を行う体制を整えている。 授業終了後の放課後の時間帯には、教室を開放してスタジオとして練習可能な環境を用意している。 また、最低年間2回の個人面談実施、必要に応じ適宜面談を実施している。

修了者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 設置初年度の為、卒業生なし。また、今年度は入学希望者なし。 ただし、音楽アーティスト科、芸能タレント科卒業生を対象としている学科であり、特にミュージシャン、タレント等として明確なビジョンを持っているであろうことから、			

就職を希望する人は特に少ないことが予想される。
(就職指導内容) 合同企業説明会、個別の企業説明会、就職活動セミナーを定期的に行う。CSS（キャリアサポートセクション）を設置し、履歴書添削、面接指導、自己分析指導等を常時行っている。
(主な学修成果（資格・検定等）) エンタテインメント業界でミュージシャン、歌手などのプロフェッショナルとして活動するために必要な技術・知識の習得。
(備考) (任意記載事項) 学科の特色としてプロのアーティスト活動を強く目標とする学生が多く、積極的に就職活動を行う学生は少ないと思われる。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 設置初年度の為、過去データ無し。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 年に数回個別面談。保護者への近況報告。学費、奨学金相談など。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		音楽専門課程	楽器技術研究科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	856 単位時間/単位	982 単位時間/単位	28 単位時間/単位	2,857 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			3,867 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		5人	3人	1人	0人	1人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校ホームページにて公表されているシラバス、及び様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照。 URL : https://www.esp.ac.jp/tokyo/introduction/info/
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の2. 及び3. を参照。 但し、2. における「●進級判定」に関する事項は1年制の学科のため、考慮しないものとする。
修了の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照。 但し、卒業を修了と読み替えるものとする。
学修支援等
（概要） 通常の授業期間とは別に、フォローアップ期間及び追再試期間が予め設定されており、計画的な学修支援を行う体制を整えている。 早期入社等についてもレポート提出によって出席と同様の扱いとするなど、対応をしている。 また、最低年間2回の個人面談実施、必要に応じ適宜面談を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
3人 (100%)	0人 (0%)	2人 (66.6%)	1人 (33.3%)
（主な就職、業界等） 主に楽器製造、楽器販売、楽器修理等、楽器業界。他の一般業界。			
（就職指導内容） 合同企業説明会、個別の企業説明会、就職活動セミナーを定期的で開催。CSS（キャ			

リアサポートセクション)を設置し、履歴書添削、面接指導、自己分析指導等を常時行っている。
(主な学修成果(資格・検定等)) 楽器製作、楽器修理、ピアノ調律、アンプ・エフェクター等周辺機器製作、楽器演奏技術、3D CAD、illustrator等の技術・知識の習得。
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
3人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 中途退学者無し。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 年に数回個別面談。保護者への近況報告。学費、奨学金相談など。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載 事項)
音楽アーティスト科	200,000円	600,000円	700,000円 ※選考料 AO入学 10,000円 推薦/一般入学 20,000円	
芸能タレント科				
音楽芸能スタッフ科				
楽器技術科2年制				
楽器技術科3年制				
エンタテインメントビ ジネス研究科	0円			
楽器技術研究科				
修学支援(任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.esp.ac.jp/tokyo/introduction/info/		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制)		
<p>本校「学校関係者評価委員会規程」より</p> <p>第2条 本校は、自己評価結果の客観性・透明性を高め、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ることを目的とした委員会を置く。</p> <p>第4条 各委員は委員会において、自らの知見、見識から、教育活動及び学校運営の状況について、自己点検・評価の結果を踏まえ評価を行う。</p> <p>【実施方法】 事前に自己点検・評価報告書を委員の皆様にお渡しし、委員会当日に改めて本校より詳細説明を行う。 委員の皆様には評価シートを配布し、各第項目ごとにご意見等をご記入、ご提出いただき、学校関係者評価報告書を作成する。 報告書は委員の皆様にご確認いただいた後、当学園評議員会、理事会へ提出し、確認後に本校ホームページに公表する。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
音楽プロデューサー	令和2年2月1日 ～令和3年3月31日	関連業界等関係者
株式会社サンフォニックス	令和2年2月1日 ～令和3年3月31日	関連業界等関係者
株式会社イー・エス・ピー	令和2年2月1日 ～令和3年3月31日	関連業界等関係者

合同会社 Klang 横澤管楽器工房	令和2年2月1日 ～令和3年3月31日	関連業界等関係者
一般社団法人ピアノ調律師協会	令和2年2月1日 ～令和3年3月31日	関連業界等関係者
新宿日本語学校	令和2年2月1日 ～令和3年3月31日	直接接続している学校等
株式会社竹宝商会	令和2年2月1日 ～令和3年3月31日	近隣企業等
株式会社イー・エス・ピー	令和2年2月1日 ～令和3年3月31日	卒業生
在校生保護者	令和2年2月1日 ～令和3年3月31日	在校生保護者
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.esp.ac.jp/tokyo/introduction/info/		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.esp.ac.jp/tokyo/ 専門学校 ESP エンタテインメント東京 パンフレット

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。